

商学部対策

○ 入試概要 ○

共通テストが総合点の3割を占めるほど比重が重いことが特徴です。共通テストでは各科目均等に配点されており、二次試験では英語と数学の配点が高くなっています。

英語	国語	数学	社会	共通テスト
235	110	230	125	300

📌 戦略・ポイント

- ✓ 差をつけるなら共通テストが勝負。
- ✓ 二次試験は英語と数学でほぼ決まる。
- ✓ 国語は意外と差がつく。侮るべからず。
- ✓ 最後の社会まで絶対気を抜かない。
- ✓ 社会は最低限典型問題は押さえる。

英語

一橋の英語はオーソドックスな問題形式なので、他の科目に比べれば出題傾向に慣れやすい科目です。そしてどの学部でも配点に占める比重が高く、問題も比較的難しくないので高得点勝負になることが多いです。私は秋から少しずつ十数年分の過去問を解きました。しかし英作文に関しては、問題の特徴を押さえて練習しておく必要があるため、先生の添削を受けて、文法的な正しさだけでなく論理的な文章を書く練習を繰り返しました。

国語

数をこなすよりも、一つの文章を繰り返し丁寧に読むことで読解力を磨くことを意識して取り組みました。本格的な過去問演習は秋から始め、15年分ほど解きました。文章の言いたいことを掴めるようになるには時間がかかるので、早い段階から文章読解や要約に触れておく必要があります。一橋国語といえば要約問題ですが、どれくらい書けば200字になるのかを、過去問を繰り返すことで体で覚えておくことがおすすめです。

数学

どんな問題にも対応できるよう、多くの問題に触れて解法を知ることが意識しました。本番で難しい問題が出たとしても部分点を取れるよう、論証の過程に過不足がないかを先生に添削してもらっていました。過去問は夏休み明けから取り組み、前期を20年分解いてからは後期も数年分解きました。(後期の問題は傾向が違うので無理してやる必要はありません)時間を計りプレッシャーがある中でも落ち着いて解く練習をしました。

社会

社会の論述問題は、問われ方に応じて知識を使い分ける柔軟さと判断力が求められます。一問一答などで知識をつけることは基礎固めとして大事ですが、身に着けた知識を正しく運用するための文章力も必要です。商学部は社会の配点が低いため多くの時間は割けませんが、一橋の社会に対応する力をつけるには過去問研究が欠かせません。何年分解くというより、頻出分野を押さえたり類題を解いたりして知識網を広げることが大切です。

経済学部対策

入試概要

経済学部の配点は数学と英語が260点ずつを占め、国語・社会での挽回が難しいです。共通テストの配点も低く、二次試験の数学と英語でどれだけとれるかが重要です。

英語	国語	数学	社会	共通テスト
260	110	260	160	210

戦略・ポイント

- ✓ 共通テストは周りと同程度に。
- ✓ 数学・英語を頑張る。
- ✓ 国語は最低限取る。
- ✓ 数学は2～3完を目指す。
- ✓ 社会で意外と差をつけられるから取る。

英語

数学と同じように配点が最も高い科目であり、一橋の英語は比較的取り組みやすい問題構成となっているため多くの受験生がそれなりの点数を取ってきます。過去問は高3の9月ごろから解き始め、合計で20年分解きました。長文問題はあまり添削してもらいませでしたが、英作文は多様な問題が出題されるため添削してもらい、しっかり対策しました。また文法問題も一部出題されるため一橋の過去の過去問を解いて対策しました。

国語

配点が110点と非常に低いため、5割程度取ることが目標でした。一橋は第1問の字数制限が短く、近代文語文、要約など特徴的な問題が出るため、傾向に慣れるべく高3の10月以降は基本的に過去問だけを解いていました。第1問は10年ほど、第2問・第3問は20年弱解きました。その際必ず学校の先生に添削してもらい、第三者に自分の言いたいことが伝わるよう特訓しました。特に第3問の要約はやればやるほど伸びます。

数学

配点が最も高い科目のため3完が目標でした。私見ですが、5つの大問は易しめの問題と標準～やや難の問題が2つずつ、難しい問題が1つからなっていると思います。全部解く必要はないため、演習の際は問題の難易度を見極める練習を兼ねて本番さながらに解いていました。夏休み明けから取り組み始め、前期を20年、後期を5年ほど解きました。後期の問題は無理に解く必要はないですが、前期と同レベルのものもあるのでおすすめです。

社会

通史を高3の春に終わらせ、夏休みから1週間に1年分のペースで過去問に取り組みました。最初は教科書を見ながら問題を解き、先生に添削をしてもらい、共通テスト後から毎日自力で解きました。教科書は歴史の流れが簡潔に書かれており論述にそのまま使いやすいので、暗記するつもりで読みました。一問一答の問題は、易しい単語か難しい単語かで極端な出題が多かったため特に勉強せず、教科書レベルの単語をしっかり覚えました。

法学部対策



○ 入試概要 ○

法学部の配点は英語が圧倒的に高く、社会と数学がほとんど同じで国語が少し低いです。他の学部ほど点数の偏りが少ないため、どの科目もバランスよく勉強することが大切です。

英語	国語	数学	社会	共通テスト
280	120	180	170	250

📌 戦略・ポイント

- ✓ 英語は英作文を極めて点数を安定させる。
- ✓ 数学は2完半、できれば3完を目指す。
- ✓ 数学は部分点をいかに取るかが鍵。
- ✓ 国語の勉強は最低限に抑える。
- ✓ 社会または数学で周りとの差をつける。

📎 英語

長文は勘が鈍らないように継続的に読むようにしていました。過去問は10年分解きましたが、特に意識して取り組んでいたのは英作文です。英作文を書くときは文法ミスだけは絶対にしないよう心掛けました。そして、模範解答などから今後使えると思った英語表現はノートにメモして表現のストックを増やしていきました。また、文法問題が苦手だったため、文法書を読み込むのはもちろん、私大の問題なども使って演習を積みました。

📎 国語

参考書で勉強するというよりは、早めに過去問を解いて一橋特有の形式に慣れることが大切だと思います。過去問は10年分解き、学校や塾の先生に添削してもらいました。特に、第3問の要約は演習を重ねれば重ねるほど書き方が上手になっていきます。第2問は、共通テストレベルの古文・漢文の知識があれば十分です。第1問の論述は字数制限が厳しいので、満点を狙うのではなく、7割程度を確実に取れるように勉強しました。

📎 数学

数学は分野別に勉強することが基本です。特に、微分積分・確率は比較的取り組みやすい分野なので、早めに仕上げました。過去問は20年分、整数の問題に関しては30年分解きました。過去問を解くことで類題は確実に解けるようにしました。頻出分野については他大学の入試問題なども使ってとにかく演習を積みました。また、どの要素を答案に書けば部分点がもらえるのかということを常に意識しながら過去問演習に取り組みました。

📎 社会

日本史の一問一答や塾のテキストなどを使って基礎が固まった後はひたすら教科書を読み込んで論述対策をしました。過去問は20年分解き、過去問で出た部分の周辺知識など含めて教科書で確認して論述のストックを増やしました。また、用語集や資料集なども活用し、教科書には載っていない情報も吸収していきました。教科書の文章は基本的にうまくまとまっているので、その文章をそのまま暗記して論述で書くようにしていました。

社会 学部対策

入試概要

社会学部の共通テストの配点は、理科基礎が高く他の科目が低くなっています。また、二次試験では英語と社会の配点が高く、全体としては二次試験の比重が非常に大きいです。

英語	国語	数学	社会	共通テスト
280	180	130	230	180

戦略・ポイント

- ✓ 共通テストはとにかく理科基礎。
- ✓ 英語は絶対に落とさないようにする。
- ✓ 国語は忘れがちだけど意外と配点高い。
- ✓ 数学は完答できなくても大丈夫。
- ✓ 社会は絶対取る。

英語

英語は中学生の頃から英語で本を読む塾に通っており得意だったので、高3の夏ごろまでは学校の勉強と塾と単語帳以外は特に勉強していませんでした。高3の夏からは私大の英語の問題を少しずつ解き始め、文法の参考書も始めました。一橋の過去問は2学期から始め、15年分ほど解きました。英作文は先生や、生成AIに添削してもらっていました。英語はとにかく演習量が大事だと思うので、直前期は毎日触れると良いと思います。

国語

現代文は塾で論述の授業を受けていたため、自分ではあまり勉強しませんでした。古典については、高3になるまでに文法をひととおり固め、その後単語を重点的に覚えていました。一橋の過去問は14年分を解き、全て先生に添削してもらいました。また、要約問題と近代文語文をそれぞれ2年分ずつ追加で解き、演習量を確保しました。他科目とのバランスを考えて、自分に必要な部分に絞り効率よく対策することが重要だと思います。

数学

数学が苦手だったので、高2～高3の夏にフォーカスゴールドで基礎を固めました。学校配布の重要問題集も高3春から始めました。高3の授業は演習中心だったので、それぞれの問題の予習・復習をしていました。また共通テスト対策として、2学期中は日曜日にI・AとII・B・Cの問題集を交互に解いていました。過去問は20年分解き、半分ほど先生に添削してもらいました。苦手であってもある程度の点は取れるように練習しました。

社会

通史の授業が2学期まで続いたため、習った内容を定着させることを重視していました。不明点はすぐに調べ、ノートにまとめていました。2学期から21年分の過去問を解き、さらに12年分は解答のポイントのみ確認しました。添削された答案はノートにまとめ、ポイントを暗記しながら何度も解き直しました。世界史はいろいろな参考書に手を出すのではなく、普段使用している教材を深く理解して覚え込むことが重要だと思います。

SDS 学部対策

入試概要

SDS学部は、共通テストと二次試験の合計の1000点のうち、二次試験の数学が330点と非常に重きが置かれている一方で、国語や総合問題の配点は低くなっています。

英語	国語	数学	社会	共通テスト
280	180	130	230	180

戦略・ポイント

- ✓ 共通テストは目標850点。
- ✓ 英語は安定に6割で良い。
- ✓ 二次試験の国語は漢字と要約取りきる。
- ✓ 数学は3完半ほしい。簡単なら4完。
- ✓ 総合問題は問題を見極めて半分取りたい。

英語

英語は安定的に6割の点数を取ることを目標に勉強していました。毎日英語に触れ、慣れることが重要です。英作文は、一橋の過去問以外にも過去の模試や他大学の問題も解いてみると慣れることができると思います。長文や単語も毎日勉強することをおすすめします。また、整序問題を間違えることが多かったので『整序問題が面白いほど解ける本』を使って勉強しました。苦手分野を徹底的に潰すことを繰り返すことも重要です。

国語

国語で最も確実に点が取れるのは、漢字です。共通テストにも漢字は出題されるので、私は9月ごろから每晚5分ほど漢字の勉強をしていました。なんとしてでも満点を目指しましょう。また、第3問の要約問題の対策も重要です。数をこなすだけでなく、学校や予備校の先生に添削してもらいコツを掴むと良いと思います。文章の要約ができるようになると読解力が向上するので、第1問・第2問は自然とより解きやすく感じるはずです。

数学

二次試験対策の約6~7割の時間を数学に費やしました。私は過去問を7月末から始めたのですが、この過去問演習で意外と一橋の整数と確率の問題に手こずっている感覚があったので、8月以降からはその分野を予備校の教材も活用しながら演習を繰り返しました。今まで簡単に解けてきた類題との差異を考え各問題の本質を理解することによって、初見の問題でも本質にたどり着き、解法を思いつけるように演習を続けました。

総合問題

総合問題は過去問が2年分しかなかったので対策が難しかったです。私は他大学の似た過去問を解きました。特に慶應の小論文には類似問題があるので、解くことをおすすめします。また、共通テストの情報のシミュレーション・プログラミング・データの分析などの分野や数II・B・Cの確率統計の分野は綿密に勉強しておくのと役に立ちます。加えて、一橋大本番レベル模試では総合問題が出題されるので必ず受けるようにしましょう。